

Ⅳ．敦賀発電所における永久方形区の選定と位置

日本原子力発電株式会社の敦賀発電所敷地内およびその周辺域を対象地として、正方形または長方形の永久方形区が20地点選定された。

20地点の永久方形区の選定は、敦賀地区に生育する植生のなかで典型的な植生を中心に行なわれた。具体的植分に対する方形区の位置の設定にあたっては、(1)方形区の立地条件がほぼ均質である、(2)群落の相観、群落構造が均一である、(3)不定期な人為的影響を受けない、という3つの基準をもとに現地踏査が行なわれた。発電所の建設、増設にともなう土地の改変、植生の破壊や攪乱を生じる可能性のある地点は除かれた。また、設定された方形区が、発電所の敷地内および隣接地（一部）に広がるような配りよがなされた。

以上の多面的な検討をもとに、現地調査によって選定された20地点の永久方形区は、タブノキ、ヤマモモ、スダジイなど常緑広葉樹の繁茂する自然植生に近い株分、貪養、乾生な尾根筋のアカマツが優占する自然林、コナラ、クリ、イヌシデなど夏緑広葉樹の二次林、アカマツの植林、花崗岩質の母岩地のわい生低木林、先駆植生などさまざまなタイプの植生の生育地である。昭和54年度の3回の植生調査をかきりに、経年的調査を実施していくことによって、各永久方形区の植生の変化、動態は、出現する種類の消長、量的変動を中心として把握することが可能である。しかも、20地点の方形区の植生の動態は、移動能力をもたない、自然環境の⁵⁶⁶要として大きな位置を占めている緑を通じた敦賀地区（調査地）の自然環境、健全な生存環境を指標してくれる。

敦賀発電所敷地内および隣接地に設定された永久方形区は、今後調査年次を加えるごとに調査資料が蓄積され、敦賀発電所建設、増設など土地の改変による直接、間接の緑で代表される自然環境への影響、地域の植生動態が総合的に明らかにすることができる。